

平成28年12月20日

長与町議会
議長 内村 博法

研修報告書

長与町議会議員研修要綱第7条の2の規定により、次のとおり公表します。

1. 研修名（主催者） 正副議長・事務局職員視察研修
（西彼杵郡町議会正副議長会）
2. 研修日時 平成28年10月24日～25日（2日間）
3. 研修先 佐賀県嬉野市議会・福岡県春日市議会
4. 研修目的 議員の資質向上及び議会の活性化に資するため
5. 研修参加者 山口 憲一郎議員、内村 博法議員
6. 所 見

【山口 憲一郎議員】

佐賀県嬉野市議会

○議会活性化について

議会改革の経緯については、一般市民から「議員に市政について負託しているが、議会は政策の提言なども何もせず、単に市長の政策を追認するだけだ」との声があり、加えて議会改革が全国的に高まってきたことで、議会基本条例を制定する動きとなった。

議会報告会については、年1回以上の開催（年2回）

班編成2班（定数18名）で市内8ヶ所を4日間で実施されているが年々会を重ねるごとに出席者も減少してきている。（28年7月では77人）

議会としても参加者を増やすためにいろいろ努力を重ねているということであった。長与町においてもおなじことがいえるのではないかと思った。

政策討論会及び政策提言の実施については各常任委員会で検討した政策提案

を政策討論会において「政策提言書」に取りまとめ、平成24年から市長部局に政策提言をしているとのことであった。

福岡県春日市議会

○議会傍聴について

春日市の概要については、長与町と同じように住宅の町として栄えたすばらしい環境のところでした。

傍聴席数については、一般傍聴席72席、報道関係者席6席、車椅子席4席（車椅子4台分のスペース）、親子席4席（乳幼児用ベッド1台及び4名分の席スペース）と配慮されたすばらしいものであった。

特に車椅子の方については、議場が1階にあり、いろんな障害物もなくストレートで議場に入ることが出来、便利がよいと思った。

手話通訳については、市の「登録手話通訳者等派遣事業」を利用して実施、手話通訳の要望を受けた事務局職員が派遣希望人数を申請書に記入し、担当所管へ提出し、担当所管が登録手話通訳者を議場に派遣することになっている。直近では平成26年9月定例会本会議最終日に実施したとのことであった。（手話通訳が必要な対象者は4名でした。）

本町においても、議会運営委員会でもテーマに上がっているのので、前向きに考えていってはどうかと思う。

【内村 博法議員】

1. 「議会活性化」について（佐賀県嬉野市議会、議員定数18名）

嬉野市議会はこれまで、日経グローバルの議会改革度評価において全国3位など大変高く評価されている議会で、他自治体からも多くの視察があっている。今回、「議会活性化について」のテーマで説明を受けた。

同市議会は平成21年に議会基本条例や政治倫理条例を制定され、早くから色々な議会活性化を実施されてきた。その中で、政策討論及び政策提言並びに議会改革状況評価（評価者は議員OB）などが、大変参考になった。

なお、谷口市長も来られ、市議会の活動を高く評価しているとの冒頭挨拶があった。また谷口市長は自ら手話を交え挨拶され、障害者への配慮を強く感じたところである。

2. 「議会傍聴について」（福岡県春日市議会、議員定数20名）

春日市は現在、福岡市のベッドタウンとして勤労者の「住宅都市」として発展しており、現在、人口約11万人となっており、人口密度は九州地方の中で

は那覇市について2番目に高い市である。

今回、議場の設備が充実している春日市議会を視察し、「議会傍聴について」のテーマで主に設備状況の説明を受けた。平成4年に春日市役所行政棟と議会棟をそれぞれ独立して建設し、その後平成26年に議場の放送設備を改修したとのことである（約3千万）。

議場及び議会事務局は1階にあり、傍聴者への配慮がなされていた。また、傍聴席は、一般席72席、報道関係者6席、車椅子席4席、親子席4席（乳幼児用ベッド1台及び4名分の席スペース）となっていた。特に親子席は防音用のガラス張りで作られており立派な施設であったが、残念ながら利用実績がないとのことであった。また、手話通訳は福祉支援課が所管しており、議会が必要な時は福祉支援課に派遣要請しているとのことである。

確かに立派な傍聴席ではあるが、やはり議会としてはまずは傍聴人を増やすことが重要と感じた。（春日市議会傍聴人は一般質問で1日平均15名）